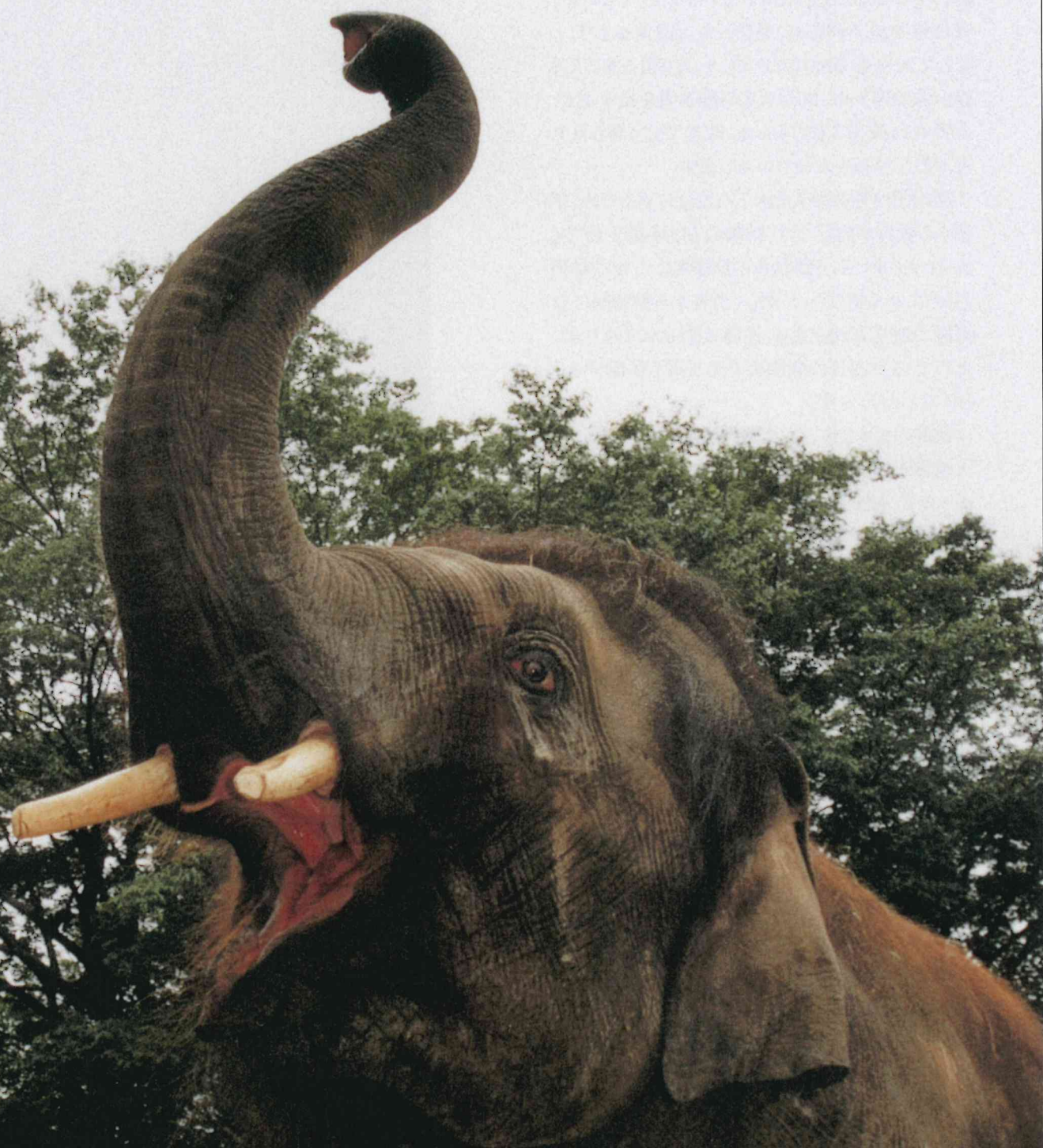


K O B E
OJI ZOO



はばたき

July 1995 No.37 神戸市立王子動物園 第37号

「イノシシ」に負けず、一日も早い復興を

神戸市立王子動物園 園長 権藤眞禎

その年の干支の動物を見ていただこうと、イノシシ年の今年は、かわいい「うり坊」を展示し、今年も良い年であることを期待していました。ところが1月17日午前5時46分に発生した大震災により、一転して大変な事態になりました。6,000人をこえる尊い命が奪われ、30万人もの避難者を出すなど、未曾有の被害を被りました。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

動物園は被害の大きかった灘区にあるため、早朝から職員が駆けつけ、動物の安否を確かめてくれました。幸いにも動物舎の倒壊もなく、死亡動物もありませんでした。しかし、当日から動物園は自衛隊の駐屯基地となり、遺体安置所にもなりましたので、3月23日の開園まで65日間も休園することになったのです。

余震の続くなか、もしも開園時間帯にこのような大地震が起こっていたらと思うと背筋の寒い思いがします。安全なレクリエーションの場として、これまで以上に安全対策を確立しておかなくてはと決意しているところです。

なお今回の震災に対し、日本動物園水族館協会や一般の皆様から心温まるご支援をいただき、大変心強く思いました。紙面を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて干支の話に戻りますが、「亥」は十二支の第12位にあり、方角は北北西を、時刻では午後10時を指します。地球上には9種類のイノシシが生息しています。日本にいるイノシシは「ユーラシアイノシシ」です。足が短いためか日本でも雪の多い北国には住んでいません。英名はWild Boar, Eurasian Wild Pig、学名は*Sus scrofa*といい、雌豚のようにたくさん子どもを産むという意味です。「猪突猛進」とのあまり賢くない意味の諺もありますが、よい意味での「猪突猛進」で、一日も早い市民生活の復旧・復興がなし遂げられ、明るい笑顔の子どもたちでいっぱい動物園になることを願ってやみません。



はばたき No.37 July 1995

今月の特集●震災&インドゾウ

今年1月、阪神地区で発生した震災時の動物園や動物たちの様子をお知らせします。
スイスから雄のインドゾウがやってきました。まだ若くてやんちゃざかりですが、毎日トレーニングに動んでいます。

CONTENTS●目次

(敬称略)

P2. 巻頭言

「イノシシ」に負けず、一日も早い復興を
文：権藤眞禎 写真：岸田一也

P3. 表紙の解説

インドゾウ 文・写真：石川康司
さっそく動物園の人気者になりました。名前は「マック」と決まりました。

P4.~P5. 震災特集Ⅰ

震災と動物園の動物たち
文：村田浩一、写真：安田伸二 川上博司
震災復興のため、動物園の職員は奮闘しています！

P6.~P7. 震災特集Ⅱ

動物園の震災日誌
文：渡瀬日司
震災のあとに生まれた子どもたち
写真：吉竹渡 兼光秀泰 川上博司 石川康司
震災なんかに負けないぞ！動物たちも元気にがんばっています。

P8.~P9. 飼育トピックスⅠ

保護されたホシガメの飼育
文・写真：川上博司
ワシントン条約違反で保護されたホシガメ50頭を試行錯誤しながら飼育しました。いまでは体重が8倍にも増えています。

P10.~P11. ゾウ特集Ⅰ

陸上最大の動物：ゾウ
文：加納至、村田浩一 写真：さとうあきら
大きな体していますが、心はとても繊細なのです。野生のゾウは数が減り続けているため保護が必要です。

P12.~P13. ゾウ特集Ⅱ

子ゾウの来園 文：藤井頼久 写真：石川康司
「ZOOっとタイムズ」No.3 漫画：川上博司



子ゾウの調教の様子などを飼育係がお伝えします。まんがは、いたずら子ゾウです。

P14. 新しく仲間入りした動物たち

文・写真:吉竹 渡 川上博司
ウマグマ、ピントロングなど珍しい動物たちが続々と来園しました。写真で紹介します。

P15. 中国出張報告

友好都市の中国・天津市との動物交流
文:関 和也 滝田政男 写真:滝田政男
マサイキリンを贈呈するために職員2名が天津にいきました。成都市での「国際パンダ会議」に参加し、臥龍自然繁殖センターも訪問しました。

P16. 飼育トピックスII

シロフクロウの繁殖
文・写真:吉竹 渡
王子動物園で初めて誕生したシロフクロウのヒナの写真がかわいいです。

P17. おもしろ動物かんさつ記

フラミンゴのくちばし
文:中筋功二 写真:吉竹 渡

フラミンゴのくちばしは見れば見るほど不思議な形をしていますよね。どうしてなんだろう?

P18.~P19. 最近のトピックス

「クマ・くま・熊」展、「収蔵資料展」
文:安宅範子 穴戸正芳 写真:谷岡正之
ホッキョクグマ舎完成とウマグマ来園を記念してクマの特別展を開催しました。収蔵資料展では、骨格やホルマリン標本など、ふだん見ることができない資料を展示しています。

ホッキョクグマ舎完成
年賀状版画コンクール
文:加納 至、 崎山修二郎

編集後記

文:滝田政男

裏表紙 インドゾウの歯

写真:村田浩一
インドゾウの雌「諏訪子」さんの奥歯です。重さは1.3Kgもあります。

表紙の解説

今年の3月、地震の爪痕が残る神戸にはるばるスイスからきたインドゾウです。大好きな母親と別れて、神戸の子どもたちに喜んでもらおうとやってきました。

体は大きく、目つき怖そうだけどまだまだ子ども。運動場にひとりぼっちにされると、不安で鳴き叫びながら飼育係を捜しています。



健康管理のための調教よりも遊ぶことが大好き。いつも運動場では水に入ったり、タイヤを蹴ったりしてずっと遊んでいます。そして飼育係のところに来ても鼻を挙げて餌をねだってきます。餌を持っていないと鼻で手を掴み、口のなかに手を入れられてしまいます。耳をもっていつしよに歩こうとしても、気に入らないと座り込んでしまひ、人間の子どもとほとんど変わりません。

今はおばあちゃんの諏訪子とふたりなので、早く将来のお嫁さんがきてくれないかと、首の代わりに鼻をなが〜くして待っている毎日です。

震災と動物園の動物たち

本年、1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災のすぐ後に、「動物園の動物たちはどうなったのだろう?」と心配された方は多かったと思います。動物園の職員がまず心配したのも、地震でオリが壊れてライオンやゾウが逃げ出していないだろうかということでした。

さいわいなことに動物園の建物はとても丈夫に作られていたため、動物たちはみな無事でした。地震の際には動物園は無人であったため、その当時の動物たちの様子はわかりませんが、しばらく後に2頭のコアラが止まり木の頂上で少し緊張した姿勢をとっているのが見られた以外は、興奮したり怖がっているような動物はいませんでした。

地震による建物の被害は少なかったと言いましたが、電気・ガス・水道といったライフラインは復旧するのに時間がかかり、その間の飼育作業はとても大変でした。動物の部屋の掃除のために、飼育係は井戸水をバケツで何度も運び、暖房が必要な動物舎には灯油ストーブをもっていきました。夜は交代で泊まり込み観察を

続けました。動物を守るためにみんな必死だったのです。

交通網が寸断されていたり道路が渋滞していたりで、動物たちの餌の確保にも苦労しました。そんな時、近くの動物園から餌の野菜や果物がトラックで運ばれてきたので、本当にうれしく思いました。

「地震前に動物に異常な行動が見られましたか?」という質問が多く寄せられましたが、目立ったことは多くありませんでした。ただ、カリフォルニアアシカがいつもとは反対

回りにプールを泳ぎ、さかんに水面から飛び上がるのが前日に観察されています。地下や水中にいる動物は、ひょっとすると地上にいるものには分からない何かをするどく感じるのかもしれない。研究の価値がありそうです。

地震後、動物園や動物たちのことを心配して全国各地の動物園や一般市民の皆様から激励の言

葉や救援の品々がたくさん送られてきました。王子動物園の職員一同、心から感謝しています。



カリフォルニアアシカの子ども '95.6.3.生まれ



フタユビナマケモノの子ども '95.5.1.生まれ



キンシコウの子ども '95.6.24.生まれ



ニホンジカの子ども '95.5.26.生まれ

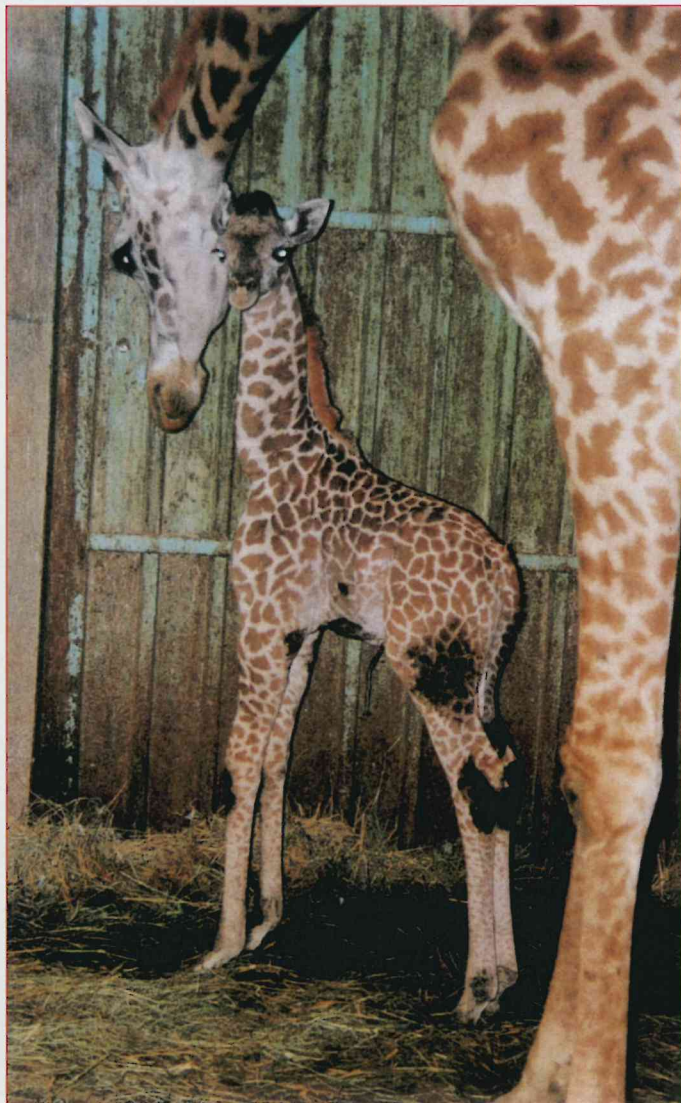
震災のあとに生まれた子どもたち



タンチョウ舎前の自衛隊テント '95.2.1.撮影



クィーンズランドコアラの子ども '95.4.25.袋から顔を出す



マサイキリンの子ども '95.6.6.生まれ

動物園の震災日誌

- | | | | |
|---------|--|---------|---|
| 1月17日 火 | 午前5時46分「兵庫県南部地震」発生。震度7の激震、臨時休園決定。園内は自衛隊の駐屯基地、動物園ホールは避難所および遺体安置所に。王子陸上競技場はヘリポートになった。午後10時ごろ電気復旧。動物舎は大きな被害はなかったため、死傷動物はなかった。コアラ舎および太陽の動物舎の室温低下、石油ストーブで対応するも回復せず。 | 1月24日 火 | 遺体安置所および避難所閉鎖。出務体制、宿直体制、通勤方法等の見直しを行い、以後体制を整備。宿直を事務4人、飼育6人体制とした。 |
| 1月18日 水 | 自衛隊駐屯者800人。遺体41体、避難者200人となる。他都市動物園から支援の申し出が相次ぐ。外国からもお見舞いのファックスが続々届く。動物舎の清掃、飲み水、自衛隊のトイレに井戸水を使用する。 | 1月25日 水 | 大阪市天王寺動植物公園から薬剤、飼料等の支援を受け、カモ類3種13羽を預かってもらう。 |
| 1月19日 木 | 午前3時30分中央卸売市場へ生鮮野菜、果物を調達に出向く。コアラの飼料であるユーカリが玉野市生産組合から届く。 | 1月26日 木 | 上水道一部復旧。 |
| 1月20日 金 | 鹿児島県・内の浦からユーカリが届く。交通事情の悪いなか京都市動物園から9時間かけて救援物資の飼料が届く。岡山県牛窓町長浜ユーカリ生産組合から飼料の支援を受けた。日本動物園水族館協会に県内の園館の被害状況を報告。太陽の動物舎の暖房を電気ストーブで対応。 | 1月27日 金 | 上水道再び断水。 |
| 1月21日 土 | 厚生大臣、県知事、市長が王子スポーツセンターの避難所を視察。 | 1月29日 日 | 避難所閉鎖その他により宿直を事務2人、飼育2人体制とした。 |
| | | 1月30日 月 | 上水道全面復旧。自衛隊の便益のため園内食堂を売店として開放。 |
| | | 2月1日 水 | ホッキョクグマ舎ろ過機パイプ緊急修理。青垣町芦田保育園から飼料の支援を受けた。 |
| | | 2月3日 金 | 太陽の動物舎の暖房を強化するため電気の臨時配線工事を施工。7年度臨時予算確定。災害復旧・復興事業中心の予算配分となる。 |
| | | 2月8日 水 | 動物園職員2名灘区災害対策本部に派遣(1週間) |
| | | 2月9日 木 | 横浜市緑政局震災調査のため来園。 |
| | | 2月10日 金 | 東京都建設部震災調査のため来園。 |



ユキヒョウの子ども '95.4.4.生まれ



カピバラの子ども
'95.1.20.生まれ



ワオキツネザルの子ども
'95.2.23.生まれ

- | | | | |
|---------|---|---------|---|
| 2月11日 土 | 園内施設および設備関係の被害状況詳細調査。 | 3月3日 金 | 金絲猴腹痛症状再発。獣医、飼育担当者泊まり込みで看護。 |
| 2月13日 月 | 動物園協会の職員を各区災害対策本部に応援派遣。 | 3月5日 日 | 灘福祉事務所、動物園ホールに移転完了。 |
| 2月14日 火 | 金絲猴「愛愛」腹痛症状、獣医・飼育係徹夜で看病。 | 3月6日 月 | 午前6時54分、金絲猴「愛愛」腸閉塞により死亡。 |
| 2月15日 水 | 文部省震災被害状況調査。 | 3月10日 金 | 自衛隊園内から撤収。 |
| 2月16日 木 | 名古屋市東山動物園震災調査のため来園。市営地下鉄全線復旧。 | 3月12日 日 | 中国動物園協会代表団来神。神戸の震災状況視察。 |
| 2月17日 金 | 日本動物園水族館協会専務理事来園。震災発生1ヵ月。 | 3月14日 火 | 文部省公立社会教育施設災害復旧事業に対する補助金の現地調査。 |
| 2月20日 月 | JR灘駅以西開通。 | 3月18日 土 | 動物園再開の記者発表。 |
| 2月21日 火 | 兵庫区救援物資配送センターに主査、飼育係2名を1週間応援派遣。灘区災害対策本部に管理係職員2名を1週間応援派遣。「動物とこどもの国」開放記者発表。 | 3月19日 日 | 動物園関係者全員による災害発生時の入園者避難誘導訓練実施。 |
| 2月22日 水 | 放養式動物舎の観覧通路を自衛隊に開放。公動協から視察来園。 | 3月22日 木 | 東京・多摩動物園、震災調査のため来園。 |
| 2月23日 木 | 都市ガス復旧。太陽の動物舎の設定室温回復。開園準備および災害発生時の避難誘導訓練等について園内関係者打合せ。 | 3月23日 金 | 王子動物園再開(休園期間65日)。23日から31日まで無料開放実施。 |
| 2月26日 日 | 震災後初の全体会議を開催。 | 3月24日 土 | 午後4時30分、スイス・ラッパースウィル市からオスの子ゾウ搬入。 |
| 2月27日 月 | 建設省調査団来園。 | 3月25日 日 | 調教師、飼育係から子ゾウの調教始まる。 |
| 3月1日 水 | 「動物とこどもの国」課外授業の一環として市内の小学校、幼稚園等に開放。 | 3月27日 火 | JR全線開通。 |
| | | 4月1日 日 | 王子動物園通常開園。駐車場営業開始。防災指令3号解除、水防関係部局は同1号となる。 |

飼育トピックス /

近年「ワシントン条約」(絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約)違反で、税関が押収した、は虫類の保護飼育の依頼も多くなってきました。ペットブームの陰でペットも多種多様になり、テレビドラマの影響もあって、は虫類が増えているようです。たしかに都会での飼育動物としては、「大きな声で鳴かない」し、「臭いも少ない」、「施設も小さくても良い」、その上「数日なら餌がなくても生きていく」…とくれば、うなずいてしまう部分もあります。

そこで この度は、簡単に飼育できそうに思えるは虫類がどれほど育てにくいかわかってもらい、おもちゃ感覚でペットにするのを考えてもらいたく思い、1994年2月に保護されたリクガメの飼育経過を報告します。

ホシガメ (インド産) 50頭の到着は、税関から電話で保護収容の依頼があつて数日目のことでした。平均

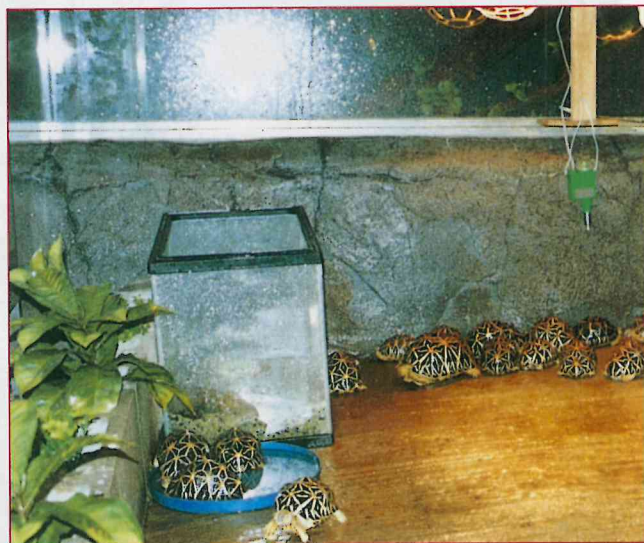
体重60g、ちいさい個体は35gのちびっこリクガメたちは、粗雑な輸送環境などからみな衰弱し、障害をみせていました。

管理は、

まず室内の温度・湿度をカメたちが採食したり、活動できる状況にセットし、

180cmの亚克力水槽に収容しました。餌も幼い個体が消化吸収できるようなものとして、一日3回に分けて与えました。それでも、状態の改善されなかった個体が1頭また1頭と代謝障害で死亡していきました。

カメたちの容体は予断を許さぬ状態でしたが、春にな



るにつれ、温室内の状態もチビカメたちに良い状態となり、汗だく飼育係とは反対に健康になりだし、死亡する個体もなくなりました。

後に個体が大きく(保護時の2~3倍)になり、水槽が手狭

になったので日本産ヘビの展示室の余地を利用し飼育しました。ただ、これには日本産ヘビたちの多大な我慢が必要でした。通常、日本産ヘビの生活温度は20~30℃、湿度も私たちが快適と感じるものより若干高い



レベルを好みますが、ホシガメたちは、35℃・湿度80~90%を快適と感じるようで、ヘビたちには蒸し風呂状態でした。保湿と排便促進のために、朝夕2回温水でカメごと展示場を洗います。これによって排便も良く採食量も向上しました。

保護されたホシガメの飼育



ホシガメ

Geochelone elegans

インド・スリランカ・パキスタンに分布する甲羅に星状の模様のある、甲長25cmになるリクガメで、ワシントン条約付属書Ⅱに該当する。

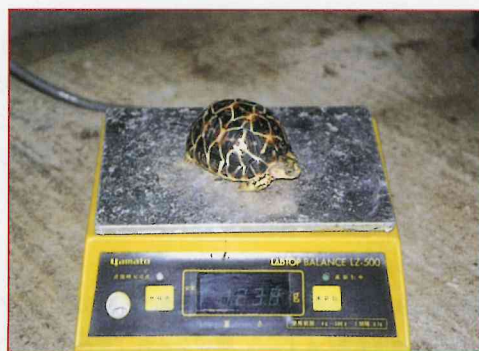
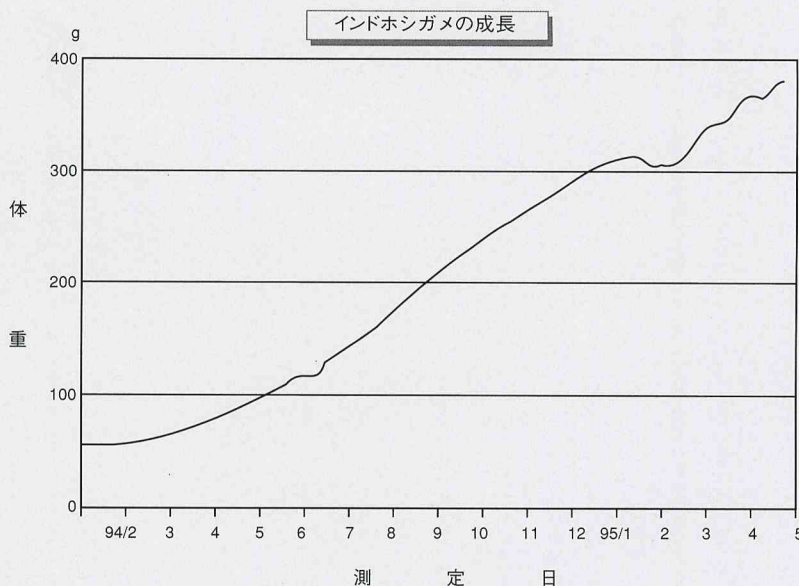
えさは、一般に草食でレタス

だけでも飼育できると、ペットショップなどで言われた人も多いようですが、幼個体では肉食傾向が強く、野生では他の動物の死骸なども食べているようで、飼育する上でも、動物性蛋白が大量に必要です。その上、ビタミンD₃やA、ヨード、カルシウムなどの添加も重要な役目をするので不可欠です。

当園では、九官鳥の人工飼育や青菜、バナナ、リクガメ用配合飼料と馬肉ミンチに添加剤(ビタミン、カルシウムなど)をかけた餌を利用しています。水分不足の防止

にレタスなど水分の多い野菜も常置しています。しかし、高温多湿の飼育展示場では餌の腐敗が早く、1日2～3回の交換が必要です。少しは大変さを理解していただけましたか。

今年始めの「大震災」の影響で、1月からの体重の減少が心配されましたが、現在では回復しひと安心です。これからの成長が楽しみで二世の誕生も期待しています。



ゾウ特集 /



ゾウの祖先は約4000万年も前にさかのぼり、その姿形は今よりもっと小さいものでした。進化するにつれ、マンモスやナウマンゾウのように大きくなったのです。昔はオーストラリアと南極大陸を除いた、すべての大陸にすんでいましたが、現在では大別してアフリカにすむアフリカゾウと東南アジアに分布するインドゾウ(別名アジアゾウ)の2種類だけになりました。

●アフリカゾウとインドゾウの違い

おもな違いを右表にしてみました。王子動物園にいるのはインドゾウです。アフリカゾウのいる動物園もありますから、機会があれば見比べてみてください。

●体の持ちよう

何といっても大きな体、大きな耳、長い鼻そして立派なキバでしょう。1955年にアンゴラでは、体重が10トンもあるアフリカゾウが見つかったそうです。

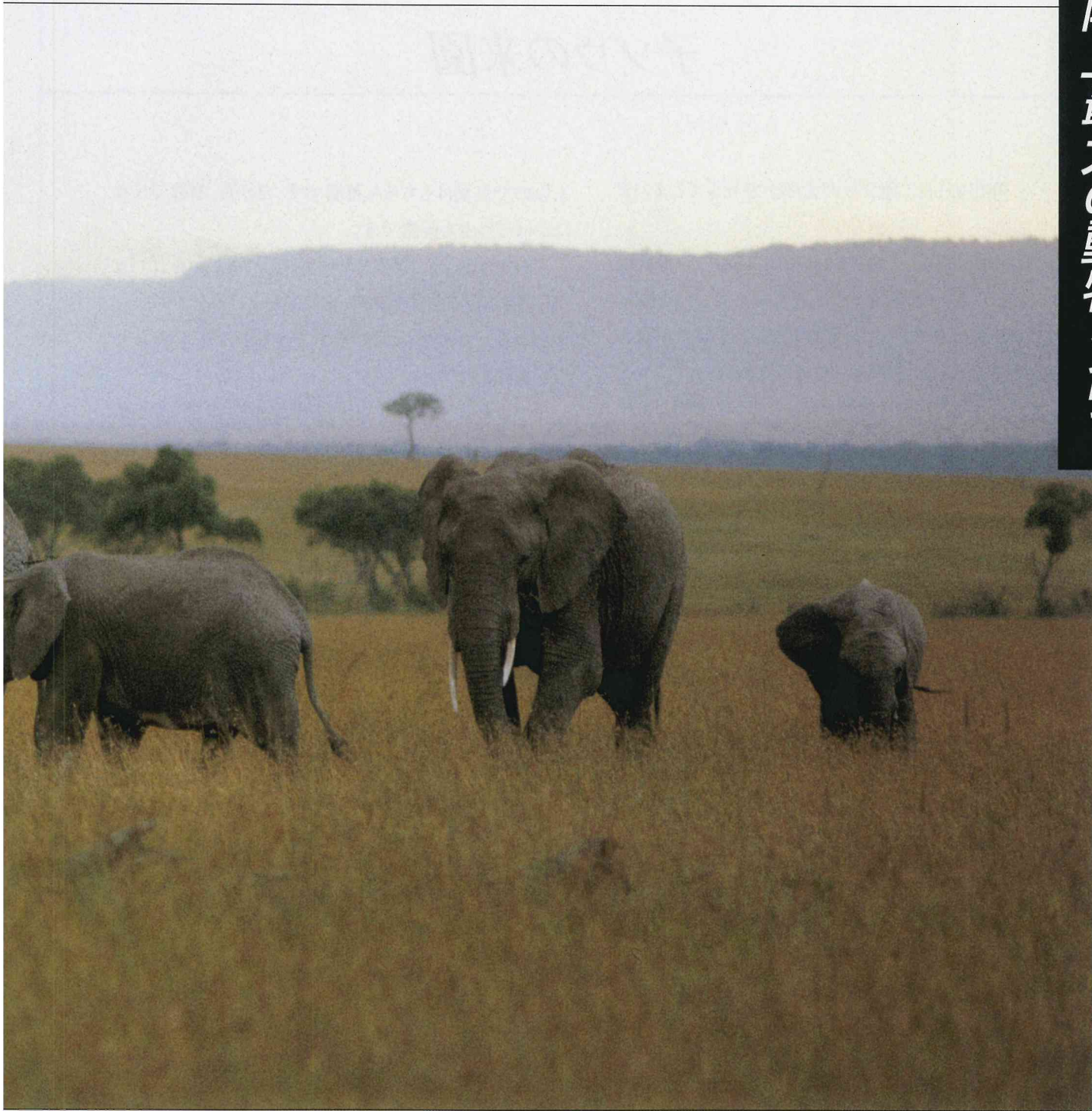
長い鼻は上くちびると鼻がいっしょになって前にのびたものです。骨はありませんが、中には2つの穴があって、呼吸したり臭いをかいだりできます。器用に使ってえさを口にはこび、豆のような小さなものまで鼻先でつまむことができます。水を飲むときにはストローのように吸い上げてから口の中にそそぎこみます。王子動物園の『諏訪子』は、1回に10リットルの水を鼻で吸い上げて飲むことができるんですよ!

歯は上下・左右に1本ずつしかなく、後からでてくる歯で押しだされるように抜けていきます。これは『水平交換』といわれる歯の生え変わり方です。

大きな耳にはたくさんの血管が通っています。この耳をばたばたと動かすことによって、体温の調節をしているのです。

●くらしと繁殖

ゾウは群れで生活します。リーダーのメスを中心にして群れをつくります。



ケニア・アンボセリ国立公園のアフリカゾウ 写真:さとうあきら

オスは成熟すると群れを離れ、単独で生活することが多いのですが、たまにオス同志の群れをつくることがあります。

ゾウの繁殖は10歳ごろから始まります。妊娠期間は約22か月と大変長く、生まれてすぐの子ゾウの体重は90～120kgもあります。1回に1頭出産しますが、次の出産までには4年以上かかります。

日本の動物園ではアフリカゾウの繁殖例はありますが、インドゾウの繁殖にはまだ成功していません。

●保護

人間による開発でゾウの生息地がどんどん縮小しています。象牙をとるための密猟も続いています。1979年に130万頭以上いたアフリカゾウは10年後に60万頭にまで減ってしまいました。

ゾウを絶滅の危機から守るために世界中の人々が努力しています。象牙

の輸出入はワシントン条約という国際法で規制されています。日本でも各地の動物園が協力しあって、ゾウに関するさまざまな情報交換をおこない保護に努めています。

●インドゾウとアフリカゾウの違い

項目	種類	インドゾウ	アフリカゾウ
背 中		背中の真ん中がいちばん高い	頭と腰が高い
前 額		左右2つのコブがあり、大きい	コブは凸状、インドゾウより小さい
耳		アフリカゾウより小さい	極めて大きい
牙(キバ)		メスは小さく、外から見えないことが多い	オス、メスとも大きい
鼻		鼻の先端の突起は上側に1個だけある	鼻の先端の突起は上下2個ある
ひ づ め		前足に5本、後足に4本ある	ふつう前足に4本、後足に3本ある
体 重		体重4000～5000kg	体重5800～7500kg

子ゾウの来園

昨年(1991年)の1月に雄ゾウの太郎が急死してしまいました。

あとに残された雌の諏訪子は、日本で一番高齢のゾウなので諏訪子まで死んでしまうと、当園にゾウがいなくなってしまうので若い子ゾウを購入することになり、準備が進められました。

今年の1月17日の震災で、子ゾウの来園があやぶまりましたが、当初の予定どおり3月に雄の子ゾウが来園しました。

子ゾウは、スイスのキンダーガーデン動物園で1992年6月13日生まれの子、体重1200kg、体の一番高い所で約2m近くありました。

ゾウは、地上では一番大きな動物です。力も強く、体重も成長すると4～5トンになります。そのため、ゾウを飼育するのは大変危険をとまいます。少しでも安全に飼育するのと、病気やケガをした時、治療をしやすくするために、調教を行います。

私たちは調教の経験がありませんので、調教を習うため、イギリス人のジョン・ウェザーヘッドという飼育係も子ゾウといっしょに来園してもらいました。ジョンさんは2週間神戸に滞在されて、その間、調教を教えてくださいました。ジョンさんは、イギリス

人なので言葉はもちろん英語です。だから、調教でゾウにかける号令も英語です。

こっちへこいを、「カムヒヤー」、後ろへさがれを、「バック」、鼻をあげろを、「ラングーン」、足を上げろを、「リフト」、すわれを、「ダウン」と言います。その他にもいろいろな号令があります。

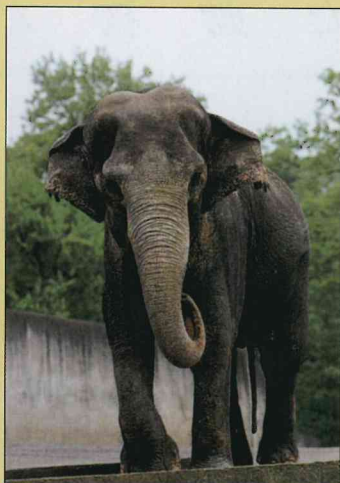
子ゾウが来園して、いよいよ調教が始まりました。私は英語がだいじらい。おまけにふだんあまり大きな声で話をしないのですが、ジョンさんによく号令の発音がちがうとか、もっと大きな声でとか注意され、英語と大きな声という2つの苦手な事に、最初はたいへん戸惑ったものです。



調教の道具にはフックといって、長さ80cmくらいの棒の先に鈎のついた物を使います。これで足をひっかけて上げさせたり、ゾウの耳を片手で持ち、もう一方の手でフックを耳の後ろに引っ掛けて、人といっしょに歩かせたり

します。また、少しかわいそうですが、人に危険な事をした時や、言うことをきかない時にフックでたたいたりします。

調教している所を見たい人は、日によって違いますが、朝10時40分頃(室内)と昼1時30分頃(運動場)、そして3時50分頃(室内)の1日3回行っていますので、どうぞ見にきてください。



インドゾウ

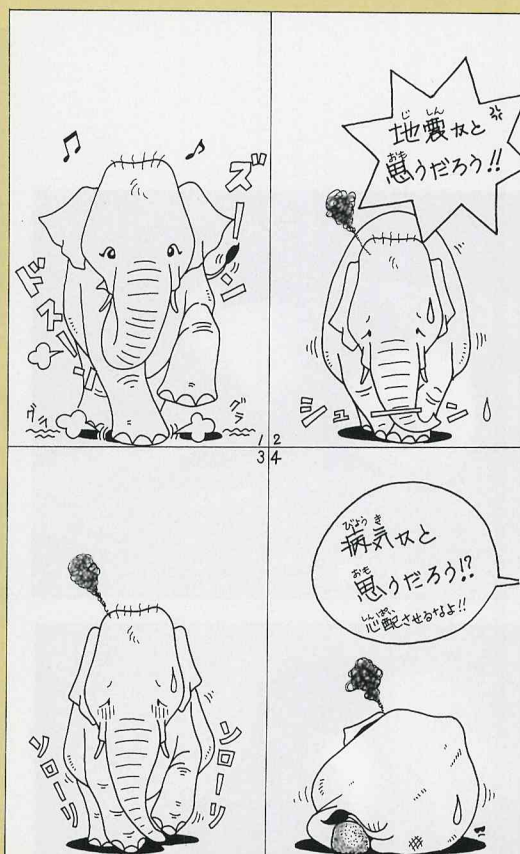


アフリカゾウ

写真提供: 財団法人東京動物園協会

ZOOっとタイムズ ●No.3

まんが:かわかみ ひろし



ケニア アンボセリ国立公園 撮影: さとうあきら

新しく仲間入りした動物たち



"燕京号で中国へ、 ジャイアントパンダの故郷へ行く"

私たち2人(瀧田政男、関 和也)は、1994年(平成6年)12月1日～14日キリン2頭、ユキヒョウ1頭、ワオキツネザル2頭を連れて中国・天津市へ行き、その後成都市で開催された「パンダ会議」に参加、臥龍パンダ繁殖センターも視察しました。

キリン等を輸送しました。

飛行機というわけにいかず、2泊3日の船旅です。汽笛が響き、いよいよ出航です。急に不安になり責任重大だなと思いましたが、動物たちの方が落ち着いていたようで、エサも食べてくれました。しかし2日目の昼すぎから海が荒れるとの情報のとおり、私たちも立ってられないくらい揺れ、甲板の上が通れないので翌朝まで世話にも行けず、動物たちがケガをしていないかと気掛かりでした。さいわいキリン1頭が顔にかすり傷をただけで済みました。その後、天津動物園で仲間と仲良く走り回っている彼らの元気な姿に会ってほっと一安心。

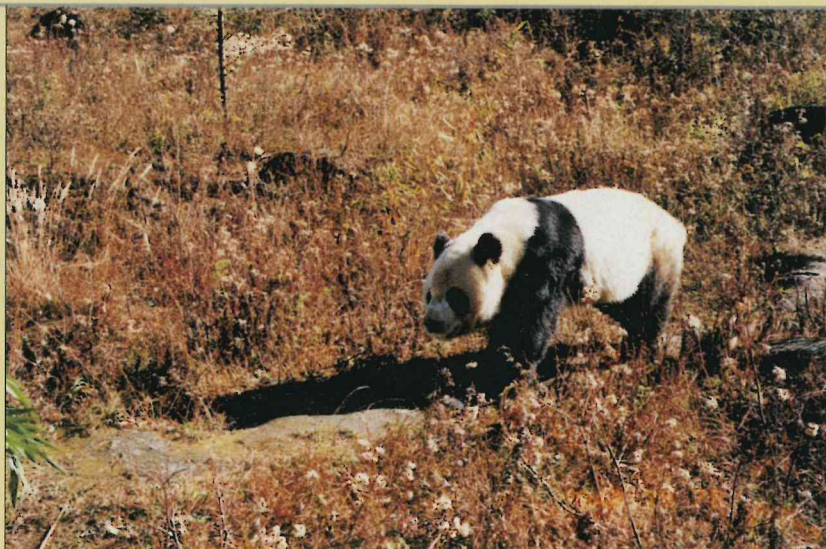
12月9日、天津動物園で贈呈式が開催されました。関係者の方々の大歓迎を受けたこの親善大使たちが、元気でその役目を果たしてくれることを祈っています。



動物贈呈式

パンダ会議へ参加しました。

三国志の「蜀」の国である四川省・成都市で開催された国際会議。日本からは私たちのほか、東京・上野動物園、白浜アドベンチャーワールド、岡山・池田動物園、熊本動植物園も参加されました。会議では、ジャイアントパンダの保護と繁殖をいかに進めるかが話し合われ、日米韓との協調の成果及び中国での育成成績の向上(30%から70%へ)も報告されました。この5年間に中国の保護区や動物園で47頭出産し、このうち33頭が元気に育成しているそうです。



臥龍パンダ繁殖センター

臥龍パンダ繁殖センターを視察しました。

成都市から車で田園地帯を抜け、山道を揺られること約4時間。いつも薄曇りの成都市から一転して、澄みきった青空の臥龍に到着しました。

標高1,200～6,250mの所にあり、約2,000km²の広大な自然繁殖地。この中には22頭のジャイアントパンダが飼育され、その他にも貴重な動植物が約6,000種も保護・管理されています。中国では成都市にさらに繁殖基地を今世紀中につくるそうです。

視察しながら特に感心したことは、自然・希少動物と私たち人間との共存を実験するため、同地域内に4,000人を越える人たちを実際に生活させていること、そして生活者は農業を営んでいます。農業などの使用を禁止するかわり、その生活を国で保障していることです。

希少動物の「保護区」を指定する場合、そこで生活している住民とのかかわりかたが問題になっています。日本でも見習うべき方策ではないかと痛感しました。



船内でのキリン



シロフクロウの繁殖

昨年、当園で初めてのシロフクロウが繁殖しました。

シロフクロウは、北極周辺のツンドラ地帯にすんでいる大型のフクロウで、名前が示すとおり雄は純白の美しいフクロウです。日本では稀に北海道に迷鳥として飛来する事がある珍しいフクロウで、国内で飼育している園館も少く繁殖もあまりありません。

当園では、15年前から飼育していましたが、産卵してもヒナが生まれませんでした。ようやく、昨年3羽のヒナが生まれたのでした。

シロフクロウの繁殖期は他の鳥よりやや遅く、5月頃になります。まず、雄がホーホーと鳴き周辺を警戒するようになると、いよいよ繁殖の始まりです。そのうち、雌が盛んに地面を掘り窪みを作り産卵します。

昨年は、5月23日に1卵目を産卵し計5個を産卵しました。鳥舎は、当初他の鳥のために建築したため屋根がありません。ヒナが生まれる頃は、梅雨に入っていますから長雨でヒナが死んでしまうおそれがあります。そのため、早速屋根と卵を安心して抱けるように囲みを作ってやりました。

抱卵は雌だけです。雄は、巣の見張り役と雌に餌を運ぶ役目です。担当者が鳥舎に近づくとホーホーと鳴いて警戒し、中に入ろうものなら凄いい勢いで飛びかかってきます。

約1ヶ月後の6月27日に、待望のヒナが親の胸の下にいるのが見えました。白い綿羽につつまれていましたが、眼は開いていませんでした。10日後には、眼が開

きかわいい顔になりました。フクロウの仲間は、1卵目から抱卵しますから、ヒナの大きさも違います。ヒナに餌を与えるのも一苦労です。どうしても早く生まれたヒナが先に奪うので、すべてのヒナに与えるようにしなければなりません。雌は、雄から受け取った餌を小さくちぎって与えます。生後20日～1ヶ月も過ぎれば、巣から少し離れると、雄が餌を与える事が多くなります。というよりヒナが雄の運んでいる餌を横取りするのです。その餌は、ヒナにしては少し大きすぎるので眼を白黒させて飲みこんでいます。

今年も、5月29日に1卵目を産卵し計6個を産卵しました。皆さんがこの記事を読んでいる頃には何羽のヒナが生まれているのでしょうか？



おもしろ動物かんさつ記 ●フラミンゴのくちばし



フラミンゴのくちばし

王子動物園のゲートをくぐって一番に見える動物ってなんだ?そうそれは美しい紅色をしたフラミンゴです。フラミンゴのネーミングは、あのフラメンコから由来し、「深紅の」という意味を表しています。野生では数千から数万羽の群れで生息しています。王子動物園でも約200羽を飼育していて、毎年数多くのヒナが誕生しています。今年はあの大震災の影響を心配してい

ましたが、元気なヒナが次々と誕生し、大きな希望と勇気を与えてくれました。そしてこの時期、多くのかわいらしい、そしてひょうきんなすがたを見ることが出来ます。

フラミンゴといえば、への字に曲がった独特なくちばしをもっていますが、ヒナは4週間ほどまっすぐなくちばしをしています。「フラミンゴミルク」と呼ばれる親鳥の赤色の食道分泌物を、ヒナに口移しで与えやすいようになっているのです。4週間を過ぎると徐々に曲がり始めます。

への字に曲がったくちばしには、「ラメラ」と呼ばれるギザギザの歯のような角質層があり、分厚い舌には何本もの突起が後方に向かって出ている。下くちばしは深い箱形をしていて、上くちばしは鍋ぶたみたいにカチカチと上下に自由に動かすことができます。エサを食べるときには頭を逆さまにして、くちばしを水の中に入れ1秒間に4~17回の間隔で舌をピストン運動させ、水や泥を出し入れします。フラミンゴのくちばしは、フィルター(ろ過装置)のようになっていて、くちばしの先から入り側面から出ていきます。そして、「ラメラ」にひっかかったエサを舌の上の突起でひっかけて食道に送りこむのです。

野生動物の絶滅が危惧されている現在、かつては数百万羽ものフラミンゴの群れが観察されていたというのに、最近では非常に数が減っています。自然を守る大切さをあらためて知り、おろかな過ちを繰り返してはなりません。

ヨーロッパフラミンゴの親子



ヨーロッパフラミンゴの親子

「クマ・くま・熊」展を開催しました。●1994.10.8.～1995.5.7.

ホッキョクグマ舎のオープン、およびウマグマの来園を記念して、クマに関する資料を集めたクマ展を開催しました。

クマはかわいいイメージとともに、こわいイメージをあわせて持っている不思議な動物です。

クイズでクマの秘密を探ったり、はく製やぬいぐるみを見て、楽しみながら人間とクマの関係について学んでもらいました。



収蔵資料展開催中! ●1995.5.10.～8.31

当園の「収蔵資料」には、園内で飼育していた動物のはく製や骨格などの標本をはじめ、図書、映像、写真、ポスターなど動物や動物園に関するいろいろな資料があります。今回の特別展では、ふだん資料館の収蔵庫や書庫で保管しているこれらの資料を公開し、見ていただくことになりました。

「わーっ、大きいな。」と、すぐに目に入るのがずらりと並んだはく製たち。ローランドゴリラ、アムールトラ、ホッキョクグマ、ナイルワニなど迫力でせまってくる動物を間近で見ることができます。

入ってすぐのところで、「動物の脳みそや!」と興味深げに子どもた

ちが集っています。このコーナーでは、ほ乳類と鳥類の脳の液浸標本を比較し、展示しています。骨格標本の展示には「ヒトとチンパンジー」「飛ぶ鳥と飛べない鳥」「いろいろな角」などのコーナーがあり、全身骨格や頭骨、角

を用いて、標本を比較しながら動物の体のつくりを学ぶことができます。

そのほか卵殻標本には、は虫類と鳥類の卵殻とはく製をあわせて展示しています。

また、標本以外の資料としては、海外動物園の珍しい

ポスターや、古い飼育日誌、写真、パンフレットなど、動物園の歴史がうかがえる資料も展示しています。

「収蔵資料」は動物園の宝物。資料館では、これらの資料をいつでも活用できるように整理し、大切に保管、保存するように努めています。

今回の特別展で、初めて公開することができた標本もありました。これからはいろいろな標本や資料を収集し、このような展示をはじめ、教育活動や研究にこれらの資料を役立てていきたいと思っています。



ホッキョクグマ舎オープン!!

建築しておりましたホッキョクグマ舎が完成し、平成6年8月26日にオープンしました。新しいホッキョクグマ舎は、以前の獣舎に比べ約6倍(1,000㎡)の広さです。施設内には約5mの高さから流れ落ち、しぶきが飛び散る滝、広く常に美しい水を確保しているプールがあります。擬岩で作られた環境は、まるでカナダ・ハドソン湾の中にいるようです。このため、ホッキョクグマ生息地に近い

情景を見ることができるでしょう。ガラス越しにホッキョクグマの生活ぶりが観察できるようになっており、豪快にプールに飛び込んできたり、足の裏が見えると歓声があがっています。また、寝室のほか産室もあって、かわいい赤ちゃんの誕生が期待されます。なお、プール水は園内の井水をオゾン処理し循環濾過していますので、資源の有効利用できるようになっています。

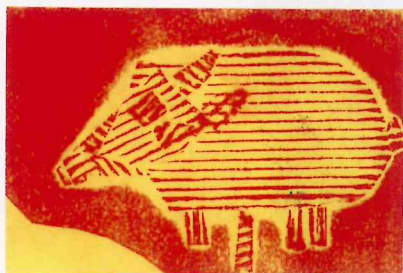
●第27回「いのしし年」賀状版画コンクール



神戸市長賞
松村 徹之(田鶴野幼稚園・豊岡市)



神戸新聞社賞
久保 早代(中寺小・神崎郡)



神戸市動物愛護協会長賞
とくもり まや(緑が丘幼稚園・三木市)



サンテレビジョン賞
奥田 邦博(神戸)



王子動物園長賞
桜井 絵梨香(白川小・神戸市)



神戸市教育委員会賞
佐藤 幹也(豊岡北中・豊岡市)



神戸王子動物園協会賞
森 翔太(弘道小・出石郡)

応募総数1,134点の中から、特別賞7点(掲載写真)、金賞30点、銀賞100点が選ばれました。今年も開催を予定していますので、ぜひご応募ください。なお、詳しい応募方法は「広報こうべ」11月1日号に掲載予定です。

編 集 後 記

今年の1月17日早朝発生した『阪神・淡路大地震』は、想像を絶する激しさでした。幸い王子動物園は大きな被害を免れましたが、動物たちもさぞや怖かったことでしょう。

震災で発行が遅れましたが、「はばたき」37号をお届けします。大震災の記録を残すとともに、それにも負けず頑張っている動物たちの姿を特集しました。野生ゾウの写真は、さとうあきらさんと(財)東京動物園協会からお借りました。ありがとうございます。

なお今回の震災に対し、動物園関係者をはじめ、全国の皆様からいただきました温かい御声援にはほんとうに元気づけられました。紙面を借りて心から厚くお礼申し上げます。

王子動物園の復興のため次の方々からお見舞いの義援金及び救援物資をいただきました。(順不同、敬称略)

(社)日本動物園水族館協会、岡山県自然保護センター、池田動物園、上野動物園川口幸男・中里竜二、市川市動植物公園飼育係、フェニックス自然動物園、姫路市立動物園、名古屋市東山総合公園事務局・(財)東山公園協会、中矢美智代、山岸優子、東京・向原小学校、大阪・西中島幼稚園、吉川小学校PTA、氷上郡青垣町芦田保育園、葛馬啓子、三井小学校、田中敏子、長江一江、市之瀬博、橘滋紀、玉野市ユウカリ生産組合、上野義雄・あやか・あきほ、菊正宗酒造(株)有志、西野一信、坂元由美、倉沢侃子、天野知美、育親中学校・生徒会福祉部、常福寺保育園、久保厚子、全国飼育の集い、全国公立動物園労働組合連絡協議会、札幌市円山動物園、京都市動物園、岡山県牛窓町長浜農協組合、大阪市天王寺動物園、和歌山県立自然博物館、伊部孝幸、木全裕美子、芦村

海外の動物園からもお見舞いと激励のファックスが届きました。

ロサンゼルス・シアトル・コロンバス(アメリカ)、モスクワ(ロシア)、リガ(ラトビア)、カラシンサンクチュアリー・パース・オーストラリアコアラ財団(オーストラリア)、北京・上海・重慶・北京瀕危動物馴養繁殖センター・天津市園林管理局・天津国際経済技術合作公司(中国)

この他にもたくさんの方々から激励などをいただきました。



インドゾウ雌「^{すわ}諏訪子」の奥歯(原寸大)
小さい歯はチンパンジーの奥歯



はばたき37号 平成7年7月20日
編集 神戸市立王子動物園 ☎78-861-5624
発行 (財)神戸王子動物園協会 ☎78-801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1
定価 200円